

2021年度

第2回  
自己評価委員会報告書

於：令和4年2月

学校法人長野県理容美容学園

長野理容美容専門学校

# 自己評価委員会報告書

日 時：令和4年 2月14日（月） 10：30～13：00

場 所：松本理容美容専門学校 会議室

出席者名：(学園) 長尾理事長・嶋村副理事長・吉川事務局長・桐山広報企画部部長

(学校) 松林校長・柏原教務主任

長尾理事長挨拶

今年度はコロナ渦の大変な中、学校としてきちんと対応して頂き、また、自己評価をすることに重点をおいてきてもらい感謝している。自己評価することは、お客様のニーズの変化を敏感にとらえ学校としての自己評価も変化していく時代である。

自己評価6年目にはいり、かなり内容が成熟してきていると感じている。自己評価の取り組みの意味は大きいと感じている。引き続き、前向きに結果につなげてほしい。

## 【審議検討事項】

### 1. 2021年度自己点検・自己評価について（資料①参照）

2021年度報告として、7月自己評価委員会において中間報告した項目に加え、全項目の周知すべき点の報告を行った。

**(基準1) 総括：** 環境の整備と並行し教育内容の充実を計り、豊富な技術力と人間性豊かな指導者に成長できる。その結果各種資格試験の高合格率や各種コンテストにおいて常に全国上位を位置し続けている。また美容業界で幅広く活躍できる人材を多く輩出している。

- ・生徒満足度向上のため、生徒会中心に企画運営する組織の構築
- ・県内唯一の美容学校として、地元地域の業界全体の発展のため、地元で学び地元で高度な技術を提供できる人材の育成の発展と充実。
- ・美容科授業に連携企業の現役美容師や各種スペシャリストを委託。1学年では引き続きカット授業に3店舗のサロン講師に授業をしていただいている。2学年ではより深くまで習得できるようにアップセット・ネイル・メイク・ブライダル・カットのうち2課目の選択をして授業を行った。

**(基準2) 総括：** 第8次5か年計画（令和2年～6年）を策定し、学校教育の充実、経営面の名良、的確な運営処理、危機理体制、施設設備の充実を行う。

校舎改築に伴い、長野朝日八十二ビルにて学校運営を行う。

JNA日本ネイリスト協会認定校となる。

新校舎竣工予定

- ・教育内容・教育環境の向上のため新校舎建築事業の推進
- ・令和4年3月新校舎完成に向けて建築事業を進めていく。
- ・精神障害やメンタルの弱い生徒に対する指導の充実を図るための教員の養成や人員の確保
- ・校長が勤務評価表に基づいて評価を実施している
- ・令和3年1月ビューティビジネス科教員を1名採用
- ・現代に合った教育内容に対応できる人材の確保と育成
- ・感染拡大防止のため、新たに自宅学習の履修を構築した。生徒の履修のエビデンスは、手作業になってしまう
- ・学校見学やオープンキャンパスから入学、在籍中の履修や活躍、卒業後の活躍などが一覧として確認できるようにシステム化する必要がある。

(基準3) **総括**: 即戦力になる人材育成のために、カリキュラム内容や各教科の明確な目標達成と、成績評価を行う。本年度も「必修選択科目」の指導体制を充実させて「幅広い教養」「人間力」および「社会人基礎力」などの育成を図る。2学年選択授業にカットとブライダルを取り入れた。選択ネイルにおいては、JNAの認定校となり、ジェルネイル検定を取り入れた。  
コロナ渦であるため、教育活動において、学びの場を止める事の無いように、一人一人の生徒の状況に対応しながら進められた。

- ・到達目標を明確にし、成績分布表や誤答率などで生徒一人一人が、自分自身の分析をして改善していく方向に促している。
- ・シラバス作成においては、担当外部講師と担当職員で検討し、教務主任、校長へと繋げて教育課程編成委員会で検討しながら決定している。シラバスを基に、自宅待機学習の際にも明確に指示することができた。
- ・実務実習の回数を増やした。1学年1月の実務実習は感染拡大防止のため、2学年へ延期した。
- ・目標達成値は担当外部講師と担当職員で検討し、シラバスと共に生徒へあらかじめ周知している。各教科の到達目標に向けて適正な時期に修正しながら指導し評価をつけている。外部講師、非常勤講師と密に連絡を取り合っているため、人材育成に向け熱心に取り組んでいる。
- ・授業アンケートや、生徒満足度調査など随時行い、教職員全員が共有し、常に軌道修正を行っている。資格に関する授業はすべて担当職員が生徒による評価を実施している。生徒および教職員のモチベーションを喚起し学生のニーズに応える教育環境の実現のためにも「即戦力として社会に通用する人材の育成」という本校の教育理念を踏まえた評価体制を構築していく。
- ・職員研修のための講習会を実施している。新しい技術にも対応して研修を行い、これからの美容業界のニーズに合ったものかを検討し取り入れていく。感染防止対策を優先とし、各校の教員間の連絡を密にして、授業計画を進めることができた。

(基準4) **総括**: 入学から卒業まで、そして卒業後にはたくましく成長し続け、美容の技術者として活躍できる社会人の育成を目指す。

- ・令和2年度美容師国家試験 93.8%、日本エステティック協会認定上級エステティシャン 100%
- ・今年度は休学者2学年2名、退学者2名。1学年休学者3名、退学者4名。併せて休学者5名、退学者6名となった。生徒への学習意欲を駆り立て、個々に合わせた指導と、教員の連携を行ったが、日常生活においての精神の不安定や、金銭面からなる目標の揺らぎなど様々な要因である。担任だけでなく、学校全体の問題として取り組み、目標を見失わないような、魅力的なカリキュラムを取り入れ、社会人としてのたくましさ育てる教育をしていく。
- ・時代に沿った、指導方法を検討しつつ、教職員のスキルアップのための講習を行っている。「辞めない学生の育て方」セミナーは、今の生徒の特長を理解し、データを参考にしながら指導できる、新しい内容であった。更に深めていく為に何回か講習を行う必要がある。
- ・令和3年 オンラインバトルヘアデザイン画部門 優勝    カット部門    優勝    準優勝    3位  
ラグゼビューティフォトコンテスト    入選    2名  
ケセランパサランフォトコンテスト    入賞    1名

(基準5) **総括**: 新型コロナウイルス感染防止対策として示された、文部科学省「学びの保証」へのガイドラインに沿って修学支援を推進する。

令和3年9月23日(木) Beauty Collection 長野校松本校の合同開催を各校の取り組みとして実施  
新型コロナウイルス影響により、1回目・2回目共に就職ガイダンス県内サロンのみ実施  
オンライン形式の面接・見学のサロンが増加したため、対応できるよう準備し、実施している。

- ・まず信頼関係のある担任が相談にのり、専門のカウンセラーと連絡をとって対応していく。校長中心に学校全体で連携し解決に導いている。感染の疑いがある生徒に対して、担任や学年からのオンデマンド授業や課題作成を行うよう指示を出し、学びの場を止めることなく実施できている。また、体調確認や意識調査などにより、早めの対応を行うことができた。教職員のメンターとしてのスキルアップをしていきたい。
- ・長野県からの感染防止マニュアルを基に、本校での感染防止マニュアルを作成し、毎日の健康観察と新しい生活様式を徹底した。
- ・各種コンテストへ積極的に参加できる体制を整える。美容の仕事の意義と魅力を伝える。
- ・欠席が多い、授業に集中できないなどの問題のある生徒は、早めに保護者と連絡を取り合い、改善の方向へ行くよう協力して取り組んでいる。感染状況によって不安な保護者もいると思われるため、随時感染対策などの本校の実施状況をオクレンジャーなどで通知している
- ・令和3年度新型コロナ感染防止策として、県内サロン32店舗に限り5月1回目の就職ガイダンスを行った。6月第2回においても県内サロン31店舗のみ実施した。
- ・オンライン形式の面接・見学のサロンが増加したため、対応できるよう実施。
- ・昨年に続き、特に県外への就職指導は就職部との連携を密にして取り組んでいく。

(基準6) **総括**：仮校舎のビル内で過ごしていく中、配慮しながら気持ちよく過ごす配慮ができてきた。

特に挨拶、礼儀、整理整頓と共に、落ち着いた学びの環境にすることで社会人としての振る舞いも身に付けてきた。

仮校舎では実施が難しい技術は、サロンのご協力により実施していく。

2年間で習得できるように、昨年度から来年度にかけて計画的にカリキュラムを組んだ。

2年生美容科では。選択授業にパーマを組み込めなかった分、カット、ブライダルの選択科目を取り入れ、より専門的な技術習得ができた。サロンのご協力により、実務実習でシャンプー技術を教えていただいた。

- ・清掃する方の事を考え、使用させていただいているという気遣いができてきている。
- ・実務実習の回数を増やし、感染防止対策を徹底しながら可能な限り行っていった。
- ・1年間の仮校舎では、この場所ならではの学べる体験を、計画していたが感染予防のため、なかなか実施することができなかったが、ビューコレでのヘアショーは北野文芸座で実施することができた。また、終息していた1学期終業式前に学生主体の大運動会を行うことができた。オープンキャンパスでは、係長中心に学生が主体となって行うことができた。
- ・昨年度に引き続き、オクレンジャーに登録。感染防止対策の他、防災についての連絡を行っている。

(基準7) **総括**：継続して学生募集に力を入れていく。

- ・生徒募集においてネット出願の受け入れ態勢の準備を令和6年度募集までに構築する。打ち合わせを開始している。
- ・学園HP内容リニューアル準備業者に依頼し、進めている。
- ・ネット広告の検討開始。
- ・令和5年実施に向けて入試制度・特待生・指定校の見直しをし、募集要項作成済である。
- ・特待生・指定校生の入試制度変更内容について、高校廻りを実施する準備を開始している。
- ・令和5年度学生募集から推薦入試選考方法の変更をし、募集要項作成。  
「特待生入学者、指定校入学者において事前作文提出と当日面接」
- ・令和5年度より実施する入学願書（志願理由書）の準備を開始している。
- ・在学特待制度の設立については、検討中
- ・令和6年度学生募集までにWeb出願制度を構築するため、業者との打ち合わせを実施した。
- ・新入学制度説明のため、5月・6月高校廻り実施準備を開始している。

(基準8) 継続して、問題なく実施できている。

(基準9) 継続して、問題なく実施できている。

(基準10) 継続して、問題なく実施できている。

## 2. 重点目標について (別紙1・2参照)

### ○2021年度実施報告

- ① 「教育活動」美容技術や人間力の向上
- ② 「学生支援」学校生活の充実
- ③ 「学生募集」学校の魅力と美容の魅力を伝えていく

- ・入学から卒業まで、そして卒業後にはたくましく成長し続け、美容の技術者として活躍できる社会人の育成
- ・礼儀を重んじ、人との出会いを大事にし、人の言葉や思いに寄り添える人材
- ・美容技術に興味や関心を持ち、挑戦しつづける人材
- ・職員研修により、職員の技術力や指導力の向上を行う
- ・感染防止対策を徹底して、工夫して環境を整え、在校生の満足度を上げる
- ・感染対策を徹底し、仮校舎ならではの授業やイベントを行えるよう工夫した。
- ・2学年選択授業は来年度のカリキュラムに活かされる。
- ・仮校舎でのオープンキャンパスの不安はあったが、新しい試みや、在校生の盛り上げにより、高校生にも満足していただける結果となった。現1年生に
- ・高校生時代に参加した、本校のオープンキャンパスのアンケート結果を見て
- ・来年度からのオープンキャンパスの実施方法をより良いものにしていく予定。
- ・以前より在校生のインスタがあったが、生徒会中心となり毎日投稿を実施する事により、インスタのフォロワーが増え、在校生の愛校心にも貢献したと思われる。
- ・在校生と共に魅力を伝えるという目標は達成できたと思われる。

3月31日時点で2021年度重点目標の実施状況の報告

2022年度も引き続き、重点目標を中心に向上していく努力をしていく。

### ○2022年度目標課題

- ① 教育活動 自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力
- ② 教育環境の整備 生徒育成のための教員としての力をつける
- ③ 学生募集

#### ●生活習慣の基本

相手の立場に立ち、気持ちよい空間をつくれる気遣いができるように育てる。

#### ●専門的な知識

美容の知識を深め、技術を高めていく

#### ●教職員の技術力向上

授業に責任を持つために技術の手合わせはもちろん、職員自身も学び続ける事が大切。先生方の手法を具体的にし、何を行って成果になったのか共有ししたり、授業の運営の仕方なども学べる機会を作っていきたい。

#### ●メンターとしての指導力向上

多様化する生徒に対応するために、現代に沿った指導方法が必要である。現代の『折れやすい学生』に対して、

具体的な手法を学んでいきたい。また職員間で共有して生徒の事を1番に考え指導していきたい。

●リサーチを行い、新しいアイデアと実行力で日々改善

●在校生、卒業生、業界と共に魅力を発信

少子化に向け学生募集に関しては特別な対策を施していかなければならない。新校舎を最大限に生かし、オープンキャンパスに参加した高校生の満足度を高め、在校生や、卒業生の満足度を高める事に尽きるであろう。生徒主体の大運動会は生徒満足にもつながった。また生徒のそういった楽しい場を発信していくことで、プラスのイメージに繋がると考える。SNSの活用によって学校生活の状況を常に公開することも高校生にとっては生の声や日々の校内の情報のトピックスとなり学生募集につながる。HPを活用し、卒業生のブログや訪問時の写真であったり、在校生へ向けてのメッセージなどもオープンにし、在校生・卒業生やサロン様ともネットワークを作ることによって大きな「美容を通じた家族」に成れることを目指したい。

### 3. 学校関係者委員会の報告（資料2）

- ・就職後の早い時期での退職の理由が気になる。サロン選びをきちんとしていかななくては。生徒の考えをきちんと把握し、就職先を見極めていってほしい。
- ・生徒の質・希望を把握しなくてはいけない。
- ・業界自体が、新人教育の難しさを感じているが、より一層美容業界の将来を考え憧れられるようにしていく。
- ・夢を描けない・目標設定が出来ない生徒が多いように感じる。また、人を育てられるサロンが少ないのも現状である。条件のみで選ぶのではなく、情報収集をしっかりとすることが重要では。
- ・スクールカウンセラーの効果は？  
→良い効果が出ている。話を聞いてもらえる事ですっきり出来ている様子である。
- ・精神不安定・家庭環境の難しい生徒が多く大変だと思うが、カウンセリングを上手く活用していってほしい。
- ・大変な時代であるが、家庭環境の大切さを伝えながら、心から鍛えてあげることが必要では。そのためにカウンセリングは必要である。
- ・個性も大切である。美容学校で見つけてあげること。そのために、先生自身がプライドを持つことが必要では。生徒との出会いを大切にしていってほしい。
- ・将来的には、精神科医が必要になってくるのでは。
- ・コロナと上手くつきあいながら、就職活動を行ってほしい。
- ・オリンピック後のコロナ感染拡大が心配である。今後より一層気を引き締めて、頑張ってもらいたい。
- ・学校支援サロンにて、シャンプー実習を校外実施してみてどうだったか？  
→1年生については早すぎるという指摘もあったが、全体的には良い経験になった。
- ・シャンプー実習については、サロンと生徒にとって良い機会になったのでは。  
シャンプー技術は今後も大事な部分であるので、継続していても良いのでは。
- ・在校生満足度をあげるため、在校生にアンケートをとり効率よくやるべきである。  
仮校舎に対して不満があるか→生徒の声に耳を傾け、職員で相談しながら改善していている。  
ネット系を活用していくべきである。難しい部分もあると思うが、他校の成功例をまねることも大切である。
- ・募集において、ネット広告・インスタの強化は必須である。
- ・NHK職場体験はとても良い経験になったはず。美容科とビューティビジネス科が協力し合えた点も良かった。  
今後も継続していってほしい。
- ・社会貢献の一環として、サロンで使用しているヘアカラー剤のアルミ換金を実施している。リサイクル活動を推進している。
- ・パルセイロ長野の選手たちのヘアメイクをやってほしい。

以上が、学校関係者評価委員会にて検討した事項の報告

#### 4. 教育課程編成委員会の報告（資料3）

- ・あれができない、これができないでなく、実務実習という形で、サロンとシャンプーレッスンが連携する良い機会になったと思う。生徒にとっても回数があるため、さまざまなお店に行けるので、良い刺激になると思う。
- ・水場がないからプロに教えてもらうという新しい発想。どちらも違った環境で緊張感を持つことができると思う。
- ・インスタは去年に比べて頻繁にアップされるようになってきた。頑張っ努力されていることがうかがえる。ナガコレも昨年中止にしてしまったが、今年度は無観客でユーチューブに配信した。何もしないということは楽ではあるが、繋げていくことができなくなってしまう。どんな形であれ継続することが大事。ナガコレは長野校の生徒も例年通り参加することができた。コンテストやイベントは感染対策を十分に行いつつなるべく参加することでよい刺激になる。
- ・NHKヘアメイク体験など、良い機会が得られてよかった。幅広い教養、人間力、社会人基礎力は本当に大事である、良好な人間関係が築ければ、仕事が多少きつなくても、お客様のため常に笑顔で対応できる。サロンの厳しさ等、先輩の話を聞く機会などはあるとよい。
- ・今の人の嫌なものは嫌という感覚はわかる。授業料を払って教えてもらっているというスタンスと、お給料を頂いて働いているんだという違いがあると思うが。
- ・コロナ禍であるため、生活面が心配であるが、学校としてなかなか踏み込めない部分もあると思う。個々に沿った指導を引き続きして頂きたい。国家試験はお客様にとって大きな信頼である。
- ・家庭環境はサロンもそうだが入ってからわかるものである。学校がどこまで踏み込んでいいのかわからないこともある。メンタル面でも大学では専門の方が入っている。精神論だけではやっていけない。だんだんそういう時代になっている。
- ・オンライン面接は難しい。一般職でも「思っていたのと違う」と感じ、離職してしまうようだ。どんな人とどんな働き方をするのか、実際に行ってみてみないとわからないことはたくさんある。サロン側も、今までのような育て方、雇い方をしていると人材が定着していかなくなってしまう可能性もあると思う。
- ・濃厚接触者などの状況でも、学びを止めない課題の準備や声掛けをしているとの事、生徒は感謝していると思う
- ・会社の皆さんも、活気ある若い人たちに囲まれ、一年後新校舎に移ったときに、このビルの方たちがさみしがっていただけのような存在になっているといい。生徒側も人間ウォッチングできるいい機会なので、見る視点を変え良い機会ととらえてもらえるといい。
- ・実習時のシャンプー練習については、お店によって9:00～16:00という営業時間に1人スタッフをつけてシャンプーレッスンは厳しいところもあると思う。朝練などができるような時間帯を組んでいただくと、サロン側も対応できる所が増えると思う。
- ・学生が増えたことは先生方の日頃の努力の賜物である。デジタル化が進んでいるため、苦手だと言っていられずやっっていかなければいけないことである。インスタのフォロワーが多い人は誰に向けて発信しているのかははっきりしている。ファッション性が高く、感度の良い生徒の意見を摂り入れ公式的なもので伝えていく必要がある。
- ・職員が思っていることをどんどんと伝えて、良い方向へ向いていくといい。平成13年の美容所数が21万件、美容師数が2万7千人であったが、令和2年、美容所27万件と増えているのに対し、美容師数は1万8千人と少なくなってしまった。美容師教育センター、組合で就職情報システムを確立して、就職状況の向上を図っている。学園としてもインスタやSNSを上手に利用し、HPもリニューアルして、新校舎のPRを発信していったほしい。

以上が、教育課程編成委員会にて検討した事項の報告

#### 5. 次回 第1回 自己評価委員会

日 程：令和4年7月20日（水） 10時30分より 場 所：松本理容美容専門学校 校長室